FUKUOKA市政 TOPICS

教育

学校内の「**空調設備（エアコン）**」の環境整備について、平成28年度には全ての小学校で整備が完了する見込みです。その後、中学校の環境整備が始まります。

本市の「留守家庭子ども会」ではこれまで段階的に複数施設で**小学6年生まで**の受け入れを行っていましたが（従来は小学3年生まで）、文科省「子ども・子育て支援新制度」の施行を受けて、全施設で**小学6年生まで**の受入れを開始しました。

「総合的な学習の時間」を活用して、**起業家の講話**からチャレンジする心を育む「アントレプレナーシップ教育」の試験的導入が始まりました。

子育て

ワンストップに保育サービス全般の情報提供や提案を行う専門相談員「福岡市保育コンシェルジュ」が区役所に配置されました。**保育所等に入所できなかった世帯へのアフターフォロー**も行っています。

新たな保育需要に対応するため、①保育所の新設、②既存施設の増改築、③小規模保育事業の実施などにより、さらに**1400人分の整備**が進められます。

「子ども入院医療費」助成対象が、これまでの小学6年生までから**中学3年生まで**に拡大されました。

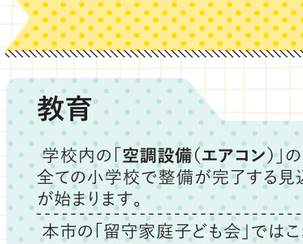
紙おむつの廃棄負担を軽減するため、昨年度から、乳児1人につき**家庭用ごみ袋（30L）が30枚支給**されるようになりました。

地域

南区における**市民サービス充実を目的とした「拠点施設」整備**の調査／検討が始まりました。

地域住民相互の「交流の場」づくりを促進することで、町内での**「地域デビュー」**の応援への取組みが強化されています。

地域防犯パトロールカーの運営助成（燃料費等）が拡大されるなど、犯罪のない街づくりへの強化策が一歩前進しました。

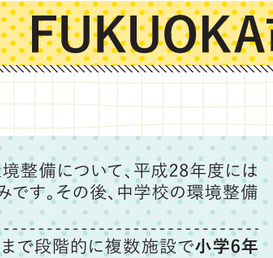


高齢者支援

市内の区役所すべてに、**「サービス介助士」**が配置されるようになりました。

「高齢者乗車券交付事業」の一環として、新たに**タクシー券**が導入されました。

昨年度から、**要介護3以上の高齢者世帯**に、家庭用ごみ袋（30L）が年間50枚支給されるようになりました。

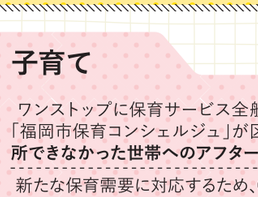


観光・MICE

海外からの大型クルーズ船の寄港数の急増に合わせて、**「中央ふ頭クルーズセンター」の共用**が開始されました。

ラグビーワールドカップ（2019年）やライオンズクラブ国際大会（2016年）など、**大型国際大会開催の受入れ**支援への取組みが行われています。

コンベンション等の飽和に伴い、**大規模ホールを備えた施設整備**がウォーターフロント地区で進められる予定です。（2020年開館予定）

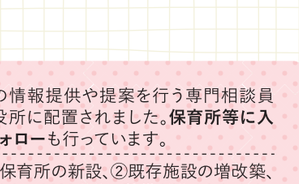


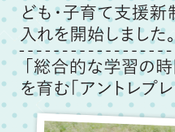
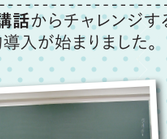
街づくり

アイランドシティへ直結する都市高速（福岡高速6号線）の平成32年度の共用を目指した準備・取組みが進められています。

本市を含む周辺都市部の**渇水・治水対策の集大成**となる「五ヶ山ダム」が、平成29年度に完成の見込みです。（昭和54年の調査／計画段階から長期にわたった大規模計画です）

「砂ゼロ・アサリ」を将来の輸出戦略商品と位置づけ、完全養殖を目指した陸上での試験養殖がスタートしました。



プロフィール

福岡市議会議員 新村 まさる

【経歴】

- 福岡市立柏原小学校／柏原中学校　卒業
- 福岡大学附属大濠高校　卒業
- 早稲田大学／早稲田大学大学院　卒業
- アサヒビール株式会社　入社・退社
- 国会議員事務所（公設秘書）　入所・退所
- スペクトラムアンドパートナーズ株式会社　入社
- NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA　設立
- 福岡市議選（2015年）　当選

【現在の活動】

- NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA／理事長
- スペクトラムアンドパートナーズ株式会社／専務取締役
- 福岡大学附属大濠高校同窓会／常務理事・相談役
- 福岡リバティライオンズクラブ／理事
- 地域自治会／役員・防犯委員

新村まさる市政事務所

〒815-0075 福岡市南区長丘2-24-3武末第一ビル1F
TEL：092-408-6375　FAX：092-408-6376
info@niimuramasaru.com

［南区］福岡市議会議員

新村まさる FUKUOKA

市政報告 | Vol.1

特集 **不登校問題と向き合う**

不登校支援、そもそもなぜ大切なのか？

地域特集 西高宮小校区／日佐小校区

本年4月12日に行われました「福岡市議会議員選挙」開票日から半年ほどの月日が経ちました。当選して最初の「市政レポート」を発行いたしましたので、ここに日頃の活動と併せまして、ご報告させていただきます。お時間あります時にでもお読み頂けたら幸いです。

本年5月2日より、「福岡市議会議員」の役務を拝任いたしました。お陰さまでこの間、「議会活動」をはじめ、「地域活動」や自身のライフワークとしております「青少年育成活動」など、様々な取組みを重ねてくることができました。そして、一日一日をこれまで以上に大切にして参りました。

まだまだ未熟ではございますが、この街とこの国の未来を絶えず想い、一歩ずつ歩を前に進めて参ります。今後もあらゆる取組みを続けていきます中で、そして何より、皆さまからのご指導の下に、知識・見識・良識を磨き続けて参ります。誠心誠意に努めて参りますので、どうか今後とも宜しくお願いを申し上げます。

平成27年 向寒

福岡市議会議員

新村　優

議会報告

所属委員会／第5委員会

平成27年 6月議会（定例会）

テーマ **本市の職員採用の在り方について**

本市職員の資質と意欲は、この街における各分野での未来公益に直結するものです。採用の方法や今後の社会人経験者採用の在り方など、多岐にわたる検証を行いました。

平成27年 9月議会（定例会）

テーマ **不登校対応教員配置に伴う「校内適応指導教室」の在り方について**

不登校支援制度のひとつである本制度において展開される不登校生徒やその保護者への寄り添い支援について、その成果を徹底検証することで有益性を引き出し、今後の拡充・充実の必要性を指摘しました。

平成27年 10月決算特別委員会

テーマ **「不登校対応教員」配置制度の今後の検証について**

9月議会に引き続き、本制度について取り上げました。本制度による成果と掛かる費用等を照らし合わせ、長期的かつ大局的な事業検証の必要性を指摘するとともに、当局からは今後の制度拡充への検証を行う旨の答弁を引き出しました。

特集

不登校問題と向き合う

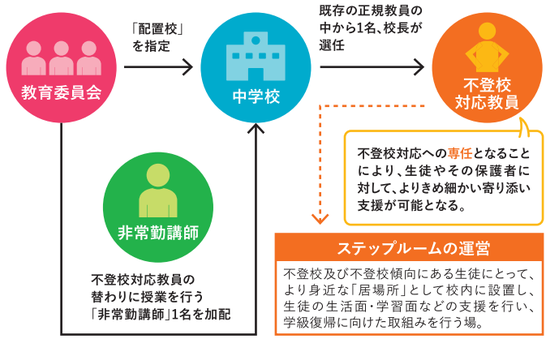
不登校支援、そもそもなぜ大切なのか?

皆さん、ご存知ですか?

福岡市の不登校児童・生徒の数。
小学生では**137人**、中学生では**794人**。
中学校に入ると、様々な要因から
学校に通うことが出来ない生徒の数が
急増している現状があります。

「不登校対応教員」配置制度について

不登校支援制度のひとつとして、本市では平成21年度から複数の中学校で本制度が実施されてきました。「配置校」では、「校内適応指導教室(通称:ステップルーム)」というものが運営され、ここでは専任の「不登校対応教員」が、不登校生徒やその保護者に寄り添いながら「学習支援や生活支援」を行い、本来の学級復帰への後押しに努めます。



※現在、市内中学校全69校のうち、24校が「配置校」指定を受けています

本制度による成果の検証

9月議会の質問で、「配置校」とこれまでに配置を経験していない「未配置校」とを比較することで、本制度による成果検証を行いました。その検証結果は以下に示す通りで、制度開始から6年間の成果は著しく、有益性が高く認められました。

検証指標1.**不登校生徒数**の推移

未配置校(27校)	配置経験校(42校)
256人(平成20年度)	499人(平成20年度)
▼	▼
209人(平成26年度)	341人(平成26年度)
減少数:47人　平均減少率:18.4%	減少数:158人　平均減少率:43.2%

検証指標2.**学級復帰率**の推移(制度開始からの6年間)

未配置校(27校)の平均値	配置経験校(42校)の平均値
11.3%	38.5%

検証指標3.配置校における学級「復帰者数」

6年間で**1,778人**(延べ139校)
年間平均で296.3人の学級復帰に寄与している

しかし、課題が多くあります

実は、この制度には「配置換え」があります。より大きな問題を抱える他の中学校が新たに配置指定を受けるわけですが、一方で「配置外れ」の通達を受けた学校での「ステップルーム」の運営はどうなるのかというと、「学校の自助努力による運営を続けなさい」という教育委員会当局からの一方的な指導があるだけです。「非常勤講師」の加配がなくなるわけですから、当然「ステップルーム」運営の専任者はつけることが出来ません。やむなく複数の教員が授業の傍らに協力し合って、「ステップルーム」の運営を続けていくことになります。

学校の先生方の負担増もさることながら、最大の課題は、配置が外れた後も不登校生徒やその保護者を実質的に支援できているのかという点です。この「配置外れ」を経験した学校(22校)では、配置を外れた直後の1年で、不登校生徒の数が59人増えているという検証結果があります。

学校側の懸命な自助努力にもかかわらず、増加に転じてしまう現状。ここに、学校側や生徒・保護者側は、大変な苦労を強いられているわけです。

「制度拡充」は考えてないという当局の姿勢

成果著しい制度である一方、改善が望まれる課題が散見され、この制度を享受できない学校では、切実に悩み続けている生徒や保護者の皆さんが多くいます。

9月議会では、本制度の拡充に向けた検証の必要性を問いましたが、「今後も24校に継続配置していく」と、当局からは制度拡充への検討の余地さえも示されませんでした。

当局の「事業検証」姿勢への疑問

決算特別委員会(10月)でも引き続き当問題について取り上げました。

まず着目したのが、「機会損失」という視点です。民間企業では、様々な事業プロジェクトを立ち上げた際、その成果が著しい場合は拡充路線を取りますし、成果乏しい事業は縮小または撤退します。事業判断の機会を窺わずに安易に現状維持姿勢を取り続けてしまっては、赤字も出続けますし、本来得られるはずの「機会損失」が出続けます。それを防ぐために、一つひとつの事業による成果を必死に分析して、検証を絶えず続けていくわけです。

本制度において、配置校数の拡充を図ろうとしない消極的姿勢によって生じる将来への「機会損失」について指摘しました。

長期的かつ大局的視点の必要性

「不登校支援」への取組みへの評価として、不登校生徒数や復帰者数の増減という直近の数値ばかりに目が行きがちですが、本来、その数値を上げるために支援を行うわけではなく、彼らに将来社会で存分に力を発揮してもらうための支援なわけです。

彼らの未来を応援していくことは、彼ら自身が人生を豊かなものにしてくれるための寄り添い支援であると同時に、彼らの将来の活躍を通して社会全体へ公益が還元されることでもあります。

本制度において、「配置校」1校あたりに掛かる費用額は、299万8千円。即ち、加配される「非常勤講師」1名分の人件費(5.5時間勤務/日)です。

そして、過去6年での本制度への支出額合計は、3億8834万5千円。本制度の成果として寄与した復帰者数合計:1,778人で割ると、1人の学級復帰に費やした費用額は21万8400円と算出されます。サラリーマンの平均収入世帯が生涯で納めることになる所得税及び住民税の合計額は3,000万円前後とも言われますが、「不登校支援」にかかる費用が、ゆくゆくは将来の社会的収支にどれほど寄与していくのかといった大局的な視点も大切であると当局に指摘しました。

「制度拡充」への検証を含めた当局の前向きな姿勢

この間、議会質問の場だけでなく、教育委員会当局と数十時間に及ぶ協議を続けてきましたが、10月に行われた決算特別委員会では、「制度拡充を含めたあらゆる検証を続けていく」と、答弁も前向きに転じ、不登校への寄り添い支援行政を一歩前に進めることが出来ました。

そもそも、なぜ「不登校支援」が大切なのか

この間、「なぜ不登校への支援が求められるのか」という根幹の問いに対する当局の回答姿勢の希薄さに懸念を抱いてきました。

不登校のまま卒業した生徒たちがその後、成人してからの実社会でどれほど苦労を強いられ悩みを抱えているのかを把握しようとせずして、本来、不登校生徒の数を減らしていこうとする取組みはできないと思うのですが、「当局の責任範疇を超える」との理由で長期的な検証への意識が低いのが現状です。

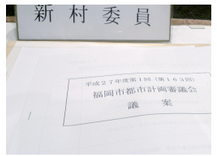
12月議会は、今後の不登校支援に向けて、この問題の根幹に向き合おうとする姿勢を問う機会にしたいと思います。

本制度を取り上げたきっかけは、悩み続けてこられた地域のお母さんからの「声」でした。ひとつの「相談」から、多くを学ぶことができています。どうか皆さまから多くの「声」を賜りますようお願い申し上げます。

活動報告

行政当局/専門機関との協議

当局との長時間の協議を重ねたうえで、議会での質問を組立てていきますし、各種専門委員会にも臨みます。また、本市における課題案件や相談案件ごとに情報収集を行い、各分野の所管当局と頻繁に協議を実施していきます。



他都市の施策を学ぶ取組み

各専門分野に特化した他都市視察等も、重要な取組みのひとつです。他都市が取組む施策について直に学び、それらの「長所・短所」を正確に見極めて本市の今後の取組みに活かしていくことが大切です。

調査または問題解決への取組み

各方面から様々な相談を受けます。様々な分野について調査を行うことで多くを学ぶことができ、今後の活動を充実させるための貴重な糧となります。お預かりします問題の解決へ向けて尽力し続けて参ります。

地域一体となった「自治活動」

様々な地域活動に取り組むことで、多くの学びとアドバイスをいただきます。夏祭りや運動会などの地域イベントでは、「準備→運営→後片付け→反省会」最初から最後まで地域の先輩方・後輩たちと力を合わせることを心がけています。

「青少年育成」への継続した取組み

少子高齢社会が進行するこの国において、若い世代やそのこどもたちの世代というのは、これからの未来社会を支えていく特に大切な役割を担います。未来を翔けるこどもたちの「心」を育む取組みをライフワークとして続けています。

南区の小学校「25校区」と比べてみました!　※他の小学校区につきましては、今後 随時取り上げていく予定です。

統計から見る、わたしたちの街の特徴は?

西高宮小校区

人口:17,369人　世帯数:8,178世帯
小学生児童数:1,054人

福岡市議選(2015年)の投票率
41.7%(南区平均41.2%)

◎**人口**が区内で1番多く、**人口密度**も区内で最も高い!
◎女性が多い街!**女性人口**が男性人口より1,687人も多い!
◎過去10年間で、**人口**が11.7%も増加!(南区平均:1.9%増)
◎こどもが多い街!**児童数**(1,054人)が区内で最も多い!
◎**医療機関**が29あり、玉川小校区に次いで2番目に多い!(1校区 平均:14.4)
◎**高齢者の割合**が16.9%で、区内で4番目に低い!(南区平均:20.8%)

日佐小校区

人口:6,822人　世帯数:2,948世帯
小学生児童数:406人

福岡市議選(2015年)の投票率
37.9%(南区平均41.2%)

◎**人口**が区内で3番目に少なく、**世帯数**は2番目に少ない!
◎過去10年間で、**人口**が9.6%も増加!(南区平均:1.9%増)
◎**年少人口**(0~14歳)の割合が16.3%、区内で2番目に高い!(南区平均:14.0%)
◎**単身高齢者世帯の割合**が6.3%、区内で2番目に低い!(南区平均:8.8%)
◎**戸建ての割合**が28.0%、**持ち家率**が39.1%
◎**校区面積**が6番目に狭く、**1世帯当たり**人数(2.31人)が6番目に高い!

※上記データは、平成26年9月末「住民基本台帳登録データ」及び平成22年度「国勢調査」の資料から引用しております。